

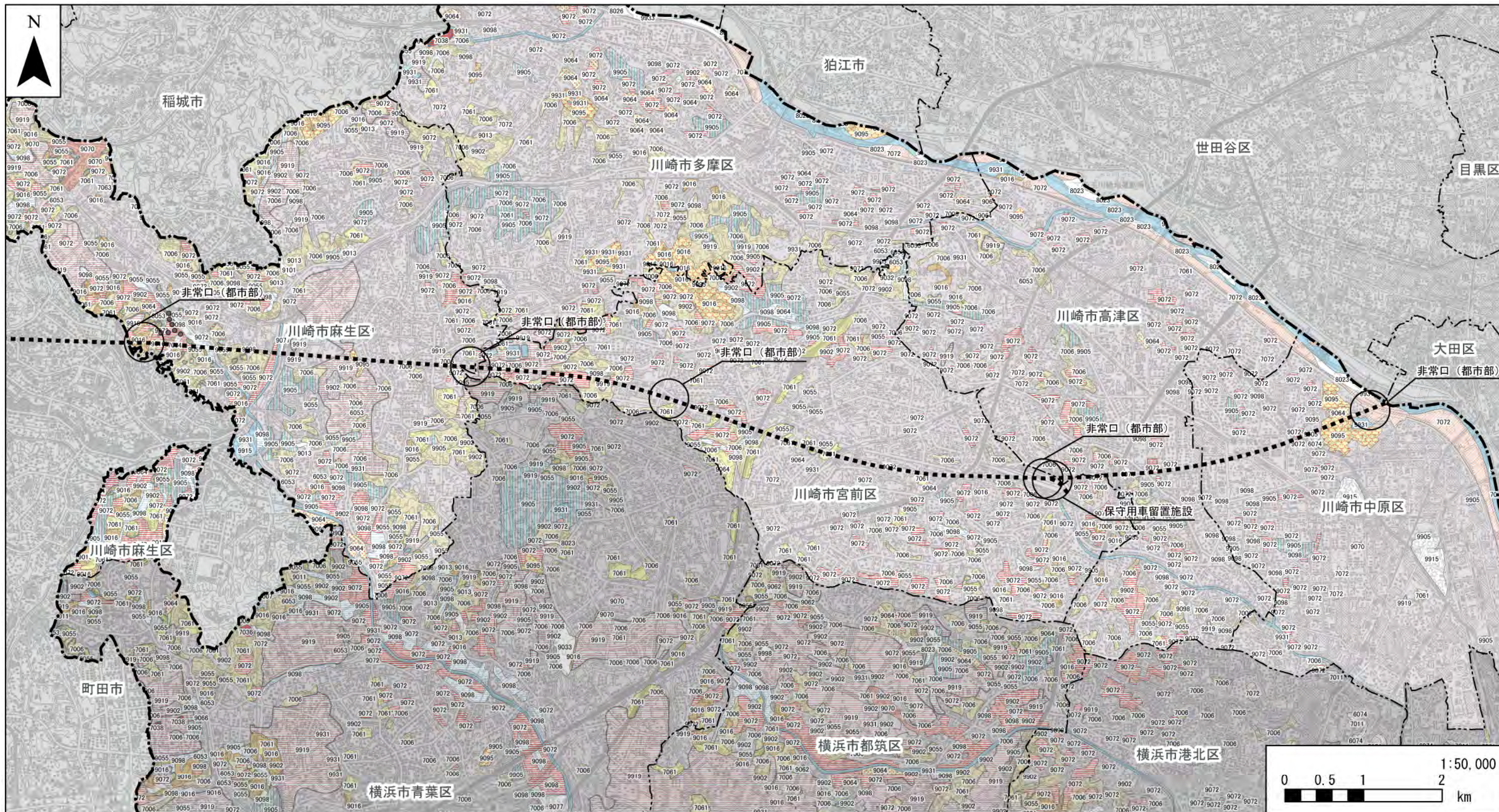
(4) 植物、動物の状況

1) 植物の状況

ア. 植生の状況

対象事業実施区域及びその周囲の現存植生図を、図 3-1-1-7 に示す。

対象事業実施区域及びその周囲の植生は、「市街地」の中に「クヌギーコナラ群集」や「畑地雑草群落」が散在する。



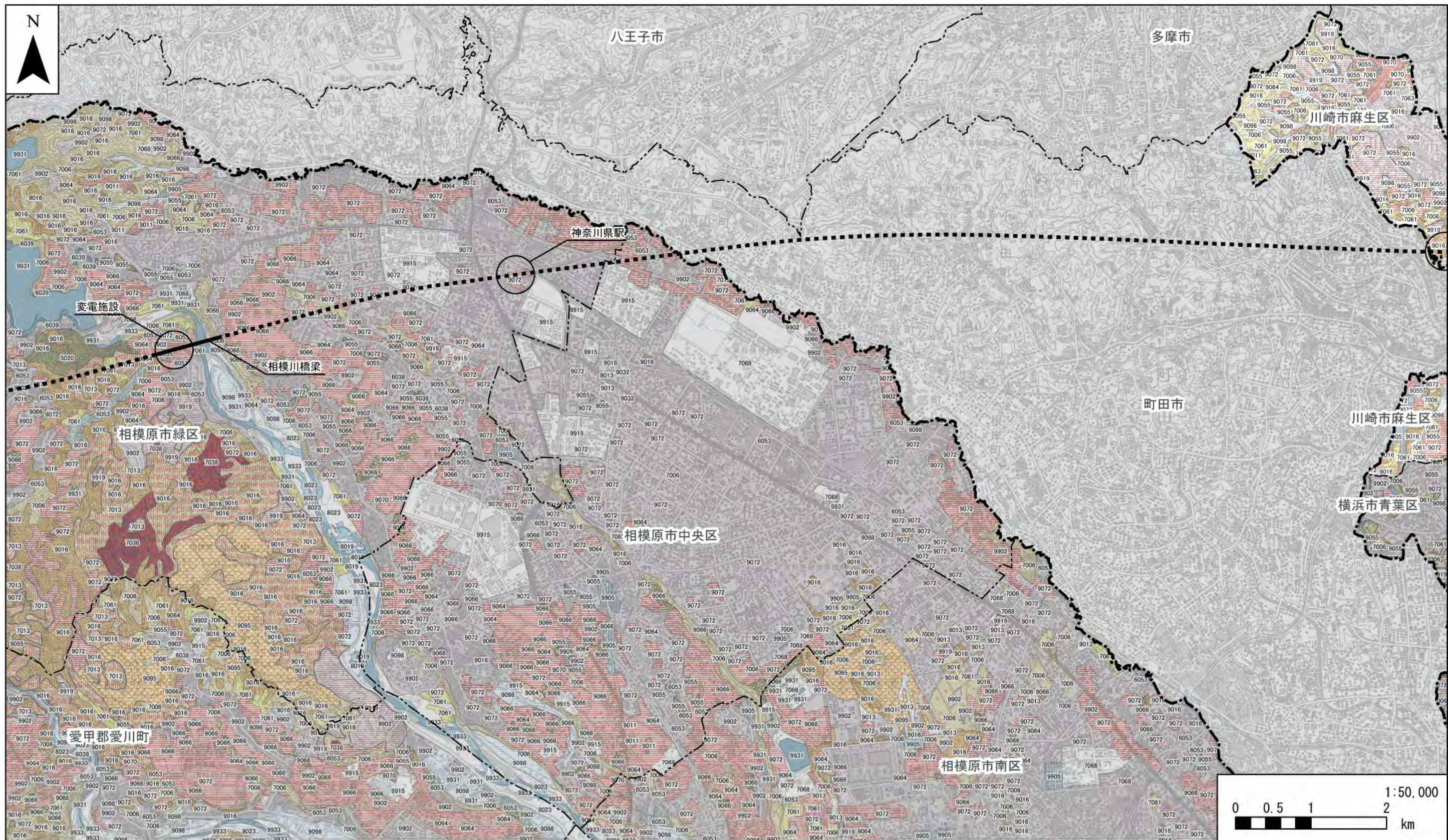
凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 工事用道路
- 都県境
- 市区町村境

- | | | |
|-----------------------|-------------------|-------------------------|
| 4015 ヤマボウシ・ブナ群集 | 5020 アカシデ・イヌシデ群集 | 7013 コナラ・クリ群集 |
| 4024 イヌブナ群集 | 5055 カワラマツ・バサスギ群集 | 7036 伐跡群集 |
| 4067 ミヤマクマワラビ・シオジ群集 | 5066 伐跡群集 | 7038 ベニバナボロギク・ダンドボロギク群集 |
| 4110 フジアザミ・ヤマハタルブクロ群集 | 6020 サカキ・ウラジロガシ群集 | 7061 アズマネザサ・スギ群集 |
| 4123 ケヤキ群集 | 6039 ケヤキ・イロハモミジ群集 | 7072 路傍雑草群集 |
| 4132 ミズナラ・リョウブ群集 | 6053 シラカシ群集 | 8019 ツルヨシ群集 |
| 5009 クリ・ミズナラ群集 | 7002 コナラ群集 | 9009 シラビソ植林 |
| | 7006 クスギ・コナラ群集 | 9011 アカマツ植林 |

資料：「生物多様性センター 自然環境情報GIS提供システム」
(平成25年6月現在、環境省自然環境局ホームページ)

図3-1-1-7(1) 現存植生図



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

—— 計画路線(地上部)

--- 都県境

---- 市区町村境

4015 ヤマボウシ・ブナ群集

4024 イヌブナ群集

4067 ミヤマクマワラビ・シオジ群集

4110 フジザザミ・ヤマホタルブクロ群集

4123 ケヤキ群落

4132 ミズナラ・リョウブ群集

5009 クリ・ミズナラ群落

5020 アカシ・デイユシデ群落

5055 カワラマツバ・スキ群落

5066 伐跡群落

6020 サカキ・ウラジロガシ群落

6039 ケヤキ・イロハモミジ群集

6053 シラカシ群集

7002 コナラ群落

7006 クヌギ・コナラ群集

7013 コナラ・クリ群集

7036 伐跡群落

7038 ベニバナボロギク・ダントボロギク群落

7061 アズマネザサ・サスキ群落

7072 路傍雑草群落

8019 ツルヨシ群落

9009 シラビソ植林

9011 アカマツ植林

9016 スギ・ヒノキ・サワラ植林

9035 落葉広葉樹植林

9055 竹林

9064 落葉果樹園

9066 桑園

9070 苗圃

9072 畑地雑草群落

9082 牧草地

9083 人工草地

9095 ゴルフ場

9098 水田雑草群落

9902 市街地

9905 緑の多い住宅地

9919 造成地

9925 造成地・裸地

9931 開放水域

資料：「生物多様性センター 自然環境情報GIS提供システム」
(平成25年6月現在、環境省自然環境局ホームページ)

図3-1-1-7(2) 現存植生図

イ. 重要な種及び群落の状況

対象事業実施区域及びその周囲の重要な植物等の分布状況を、図 3-1-1-8 に示す。

対象事業実施区域及びその周囲の天然記念物等の指定状況は、表 3-1-1-9 に示すとおりであり、国登録 1 件、県指定 2 件の天然記念物が存在する。

対象事業実施区域及びその周囲の巨樹・巨木林の存在状況は、表 3-1-1-10 に示すとおりであり、21 の巨樹・巨木林が存在する。

対象事業実施区域及びその周囲の特定植物群落の存在状況は、表 3-1-1-11 に示すとおりであり、6 の特定植物群落が存在する。

表 3-1-1-9 対象事業実施区域及びその周囲の天然記念物（植物）

指定	名 称	所 在 地	指定年月日
国登録	禅寺丸柿	川崎市麻生区王禅寺 940	平成 19 年 7 月 26 日
県指定	春日神社、常楽寺及びその周辺の樹叢	川崎市中区宮内字白田耕地 614 他	平成 4 年 2 月 14 日
県指定	東高根のシラカシ林	川崎市宮前区神木本町 2	昭和 46 年 12 月 21 日

資料：「神奈川県の文化財」（平成 25 年 6 月現在、神奈川県教育委員会教育局文化遺産課ホームページ）

表 3-1-1-10 対象事業実施区域及びその周囲の巨樹・巨木林

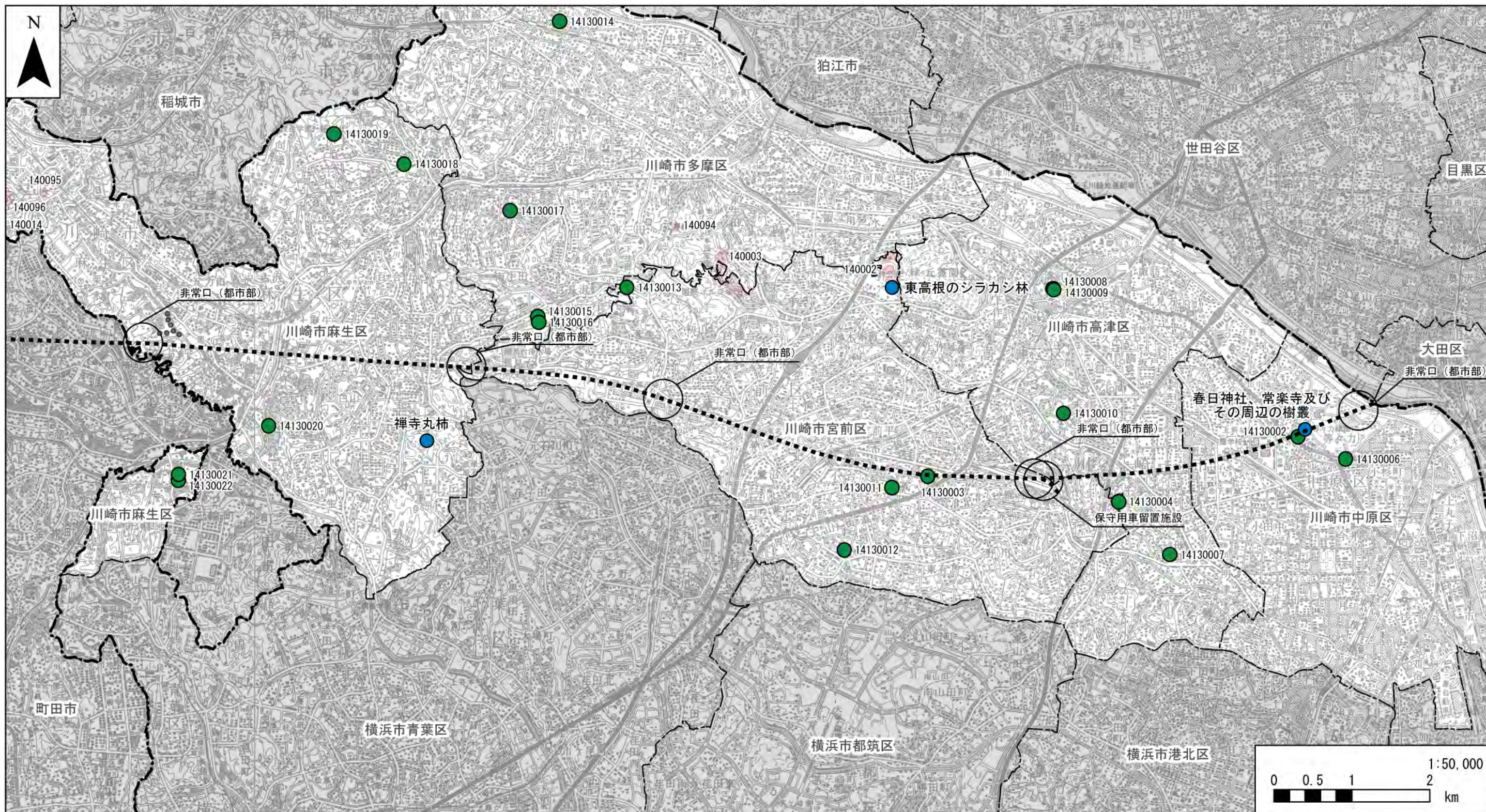
番号	所在地	推定樹齢 (年)	樹種名	幹周 (cm)	樹高 (m)	通称・呼称
14130002	川崎市（中原区）	不明	イチョウ	330	20	
14130003	川崎市（宮前区）	300 以上	イチョウ	597	24	
14130004	川崎市（高津区）	300 以上	イチョウ	800	28	乳イチョウ
14130006	川崎市（中原区）	伝承 130	ケヤキ	393	24	
14130007	川崎市（高津区）子母口	100～199	ケヤキ	308	16	
14130008	川崎市（高津区）溝口	100～199	クスノキ	365	18.5	
14130009	川崎市（高津区）溝口	100～199	ケヤキ	322	12	
14130010	川崎市（高津区）未長	—	スダジイ	390	14	
14130011	川崎市（宮前区）馬絹	200～299	シラカシ	330	20.5	
14130012	川崎市（宮前区）有馬	300 以上	ケヤキ	305	20.3	
14130013	川崎市（宮前区）管生	300 以上	イトヒバ	320	20	
14130014	川崎市（多摩区）菅稲田堤	300 以上	ケヤキ	310	15.5	
14130015	川崎市（多摩区）長沢	100～199	シラカシ	358	20	
14130016	川崎市（多摩区）長沢	100～199	シラカシ	326	20	
14130017	川崎市（多摩区）栗谷	200～299	ケヤキ	334	25.5	
14130018	川崎市（麻生区）細山	100～199	クスノキ	322	16.5	
14130019	川崎市（麻生区）	伝承 700	タブノキ	671	10.5	
14130020	川崎市（麻生区）上麻生	100～199	イチョウ	341	27.5	
14130021	川崎市（麻生区）岡上	100～199	イチョウ	355	26	
14130022	川崎市（麻生区）岡上	100～199	ケヤキ	326	31	
14130023	川崎市（麻生区）黒川	300 以上	ヤマザクラ	324	14.5	

資料：「生物多様性センター 自然環境情報 GIS 提供システム」

（平成 25 年 6 月現在、環境省自然環境局ホームページ）

「第 4 回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 関東版（II）」

（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）」（平成 3 年、環境庁）



凡例

..... 計画路線（トンネル部）

—— 計画路線（地上部）

..... 工事用道路

--- 都県境

---- 市区町村境

● 天然記念物（植物）

● 巨樹・巨木 分布地点

■ 特定植物群落 生育地域

資料：「神奈川県の文化財」（平成25年6月現在、神奈川県教育委員会教育局文化遺産課ホームページ）

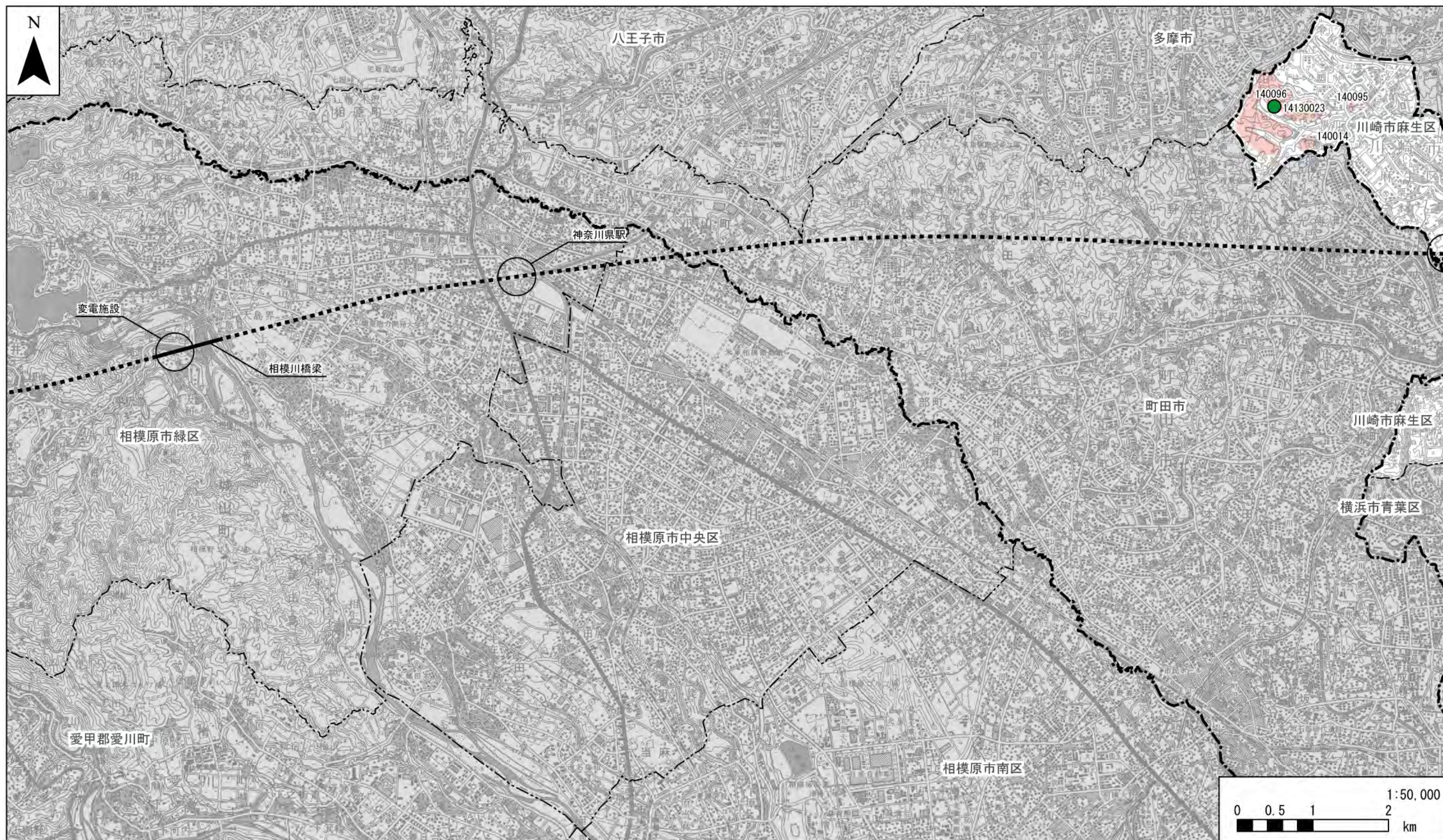
「第2回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 南関東版（埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都）」（昭和55年、環境庁）

「第3回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落II 南関東版（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）」（昭和63年、環境庁）

「第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 関東版（II）（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）」（平成3年、環境庁）

「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成12年、環境庁）

図3-1-1-8(1) 重要な植物等の分布図



凡例

..... 計画路線（トンネル部）

—— 計画路線（地上部）

--- 都県境

----- 市区町村境

● 天然記念物（植物）

● 巨樹・巨木 分布地点

■ 特定植物群落 生育地域

資料：「神奈川県の文化財」（平成25年6月現在、神奈川県教育委員会教育局文化遺産課ホームページ）

「第2回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 南関東版（埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都）」（昭和55年、環境庁）

「第3回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落II 南関東版（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）」（昭和63年、環境庁）

「第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 関東版（I）」（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）」（平成3年、環境庁）

「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成12年、環境庁）

図3-1-1-8(2) 重要な植物等の分布図

表 3-1-1-11 対象事業実施区域及びその周囲の特定植物群落

番号	名称	所在市町村	選定 回次	選定 基準	保護の現状及び 保護制度の種類・名称	備考
140002	東高根のシラ カシ林	川崎市高津区	2	E	県指定天然記念物 県立東高根森林公園	
140003	生田の雑木林	川崎市多摩区 及び高津区	2	D		
140014	黒川のケヤキ 林	川崎市 (麻生区)	2	A		第3回調査(追跡調 査)で群落の消滅が 確認されている。
140094	生田のハンノ キ林	川崎市 (多摩区)	3	A・G		
140095	黒川のシラカ シ林	川崎市 (麻生区)	3	A		
140096	黒川のコナラ 雑木林	川崎市 (麻生区)	3	E	三増峠自然環境保全地域	

注1. 表中の所在市町村は選定時のものを記載した。また、関係地区名については、出典図書をそのまま記載するため、市町村合併前の旧地名等が掲載されている場合及び区名等が掲載されていない場合がある。なお、現在の地名及び区名等を()内に記載した。

注2. 選定基準は以下のとおりである。

A: 原生林もしくはそれに近い自然林

B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C: 比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群

D: 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G: 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H: その他、学術上重要な植物群落または個体群

資料: 「生物多様性センター 自然環境情報 GIS 提供システム」

(平成 25 年 6 月現在、環境省自然環境局ホームページ)

「第 2 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落

南関東版(埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)」(昭和 55 年、環境庁)

「第 3 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 II

南関東版(埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)」(昭和 63 年、環境庁)

「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成 12 年、環境庁)

2) 藻場・干潟・湿地の状況

対象事業実施区域及びその周囲には、藻場・干潟は存在しない。

また、ラムサール条約及び環境省の日本の重要湿地 500 で指定されている湿地は存在しない。

3) 動物の状況

ア. 野生動植物保護地区及び鳥獣保護区の分布

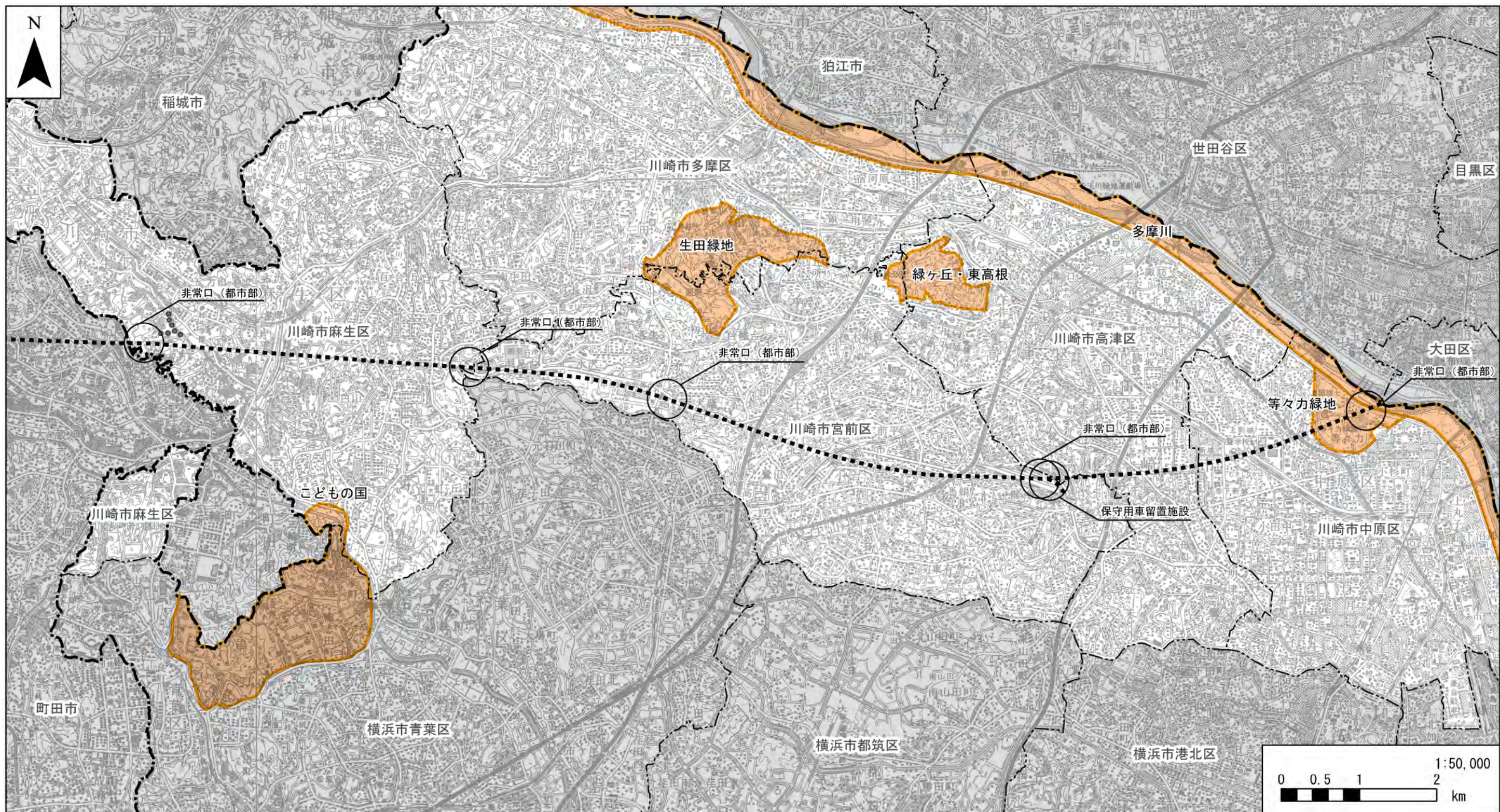
「野生動植物保護地区内訳表」（環境省）によると、神奈川県内には自然環境保全地域の野生動植物保護地区に指定されている地域はない。

また、対象事業実施区域及びその周囲の鳥獣保護区を、図 3-1-1-9 及び表 3-1-1-12 に示す。対象事業実施区域及びその周囲では、5箇所が指定されている。

表 3-1-1-12 対象事業実施区域及びその周囲の鳥獣保護区一覧

名称	設定所在地	設定面積 (ha)	特別保護地区 面積 (ha)	期間終了年月日
こどもの国	横浜市緑区、川崎市麻生区の各一部	315	—	平成 26 年 10 月 31 日
生田緑地	川崎市生田緑地	175	—	平成 26 年 10 月 31 日
多摩川	川崎市多摩区、高津区、中原区、幸区、川崎区内の各一部	703	—	平成 28 年 10 月 31 日
緑ヶ丘・東高根	川崎市高津区及び宮前区の一部	67	—	平成 30 年 10 月 31 日
等々力緑地	川崎市中原区の一部	56	—	平成 31 年 10 月 31 日

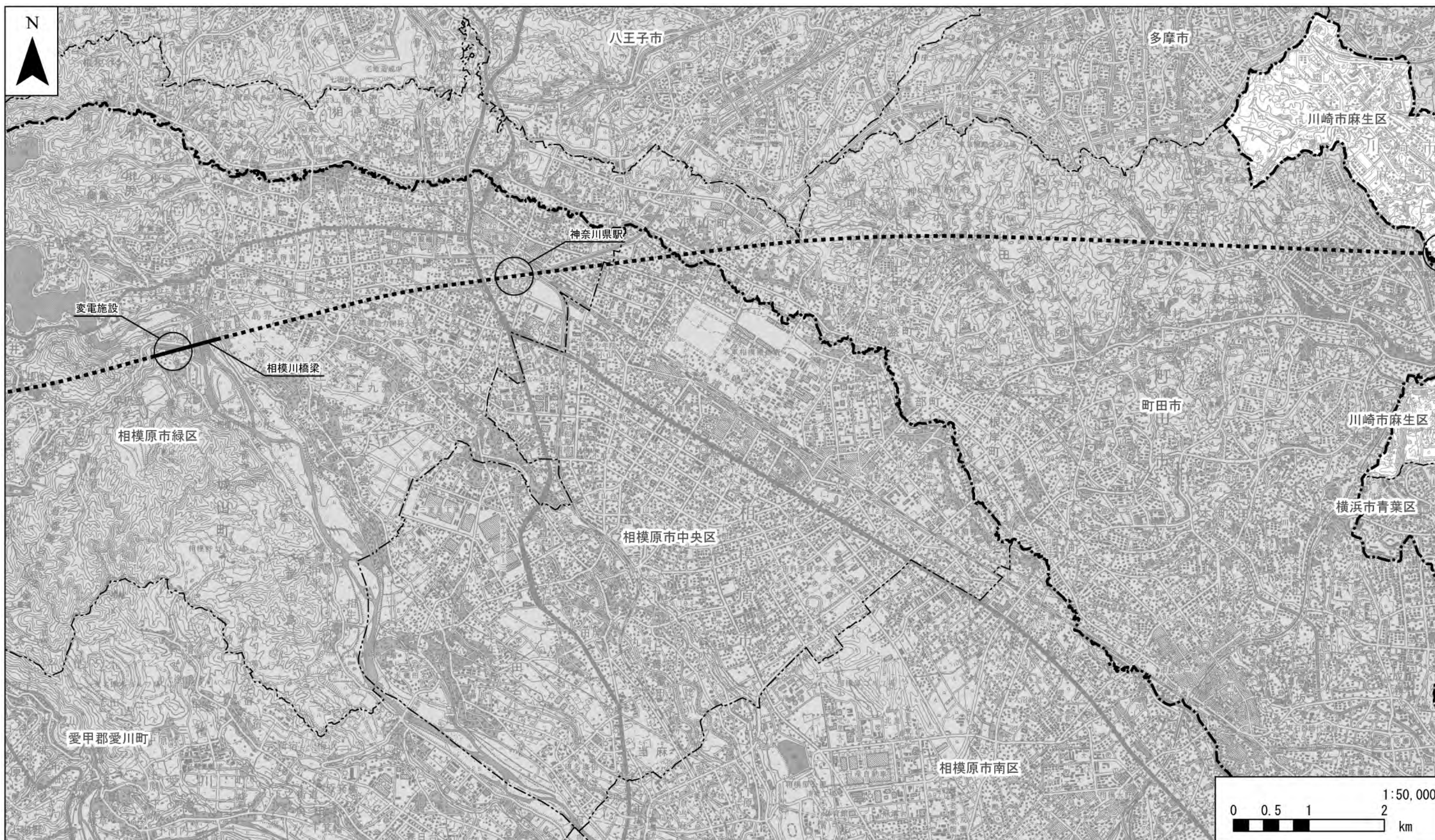
資料：「平成 24 年度 神奈川県鳥獣保護区等位置図」（平成 24 年 10 月、神奈川県）



- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 計画路線(地上部)
 - 工事用道路
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 鳥獣保護区
 - 鳥獣保護区特別保護地区

資料：「平成24年度 神奈川県鳥獣保護区等位置図」（平成24年、神奈川県）

図3-1-1-9(1) 鳥獣保護区の指定状況図



- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 計画路線(地上部)
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 鳥獣保護区
 - 鳥獣保護区特別保護地区

資料：「平成24年度 神奈川県鳥獣保護区等位置図」（平成24年、神奈川県）

図3-1-1-9(2) 鳥獣保護区の指定状況図

イ. 動物の概況、重要な種及び注目すべき生息地の状況

対象事業実施区域及びその周囲の哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類及び魚類の生息状況を、以下に示す。

(哺乳類)

「自然環境保全基礎調査 第6回動植物分布調査(種の多様性調査)」(平成16年、環境省)の分布調査対象種9種の内、対象事業実施区域を含むメッシュ⁽⁵⁾で生息が確認された種を、図3-1-1-10及び表3-1-1-13に示す。

この内、キツネが、「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)(以下、「県レッド」という。)に基づく準絶滅危惧に指定されている。

表 3-1-1-13 対象事業実施区域を含むメッシュで生息情報が確認された哺乳類

目名	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
ネコ目	イヌ科	タヌキ				
		キツネ				準絶滅危惧
	イタチ科	アナグマ				
1 目	2 科	3 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注1. 選定基準は以下のとおりとする。

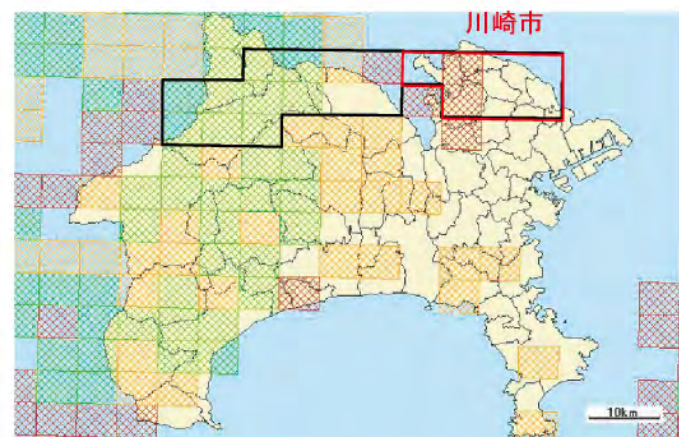
- ①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年、法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」(平成24年、環境省)
「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成25年、環境省)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
- ④「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

注2. 表中の空欄は、該当するものがないことを示す。

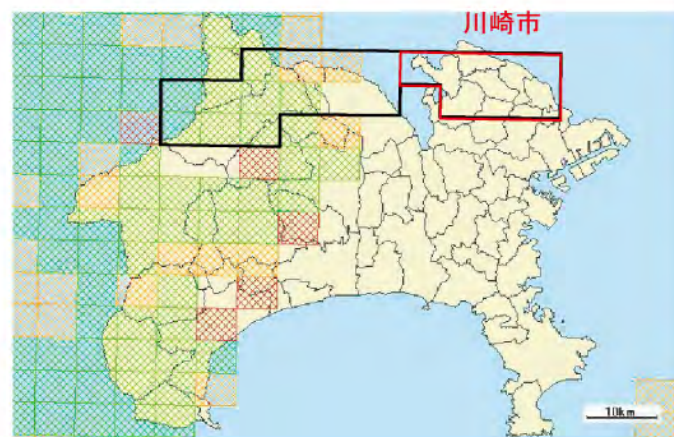
資料：「自然環境保全基礎調査 第6回動植物分布調査(種の多様性調査)」(平成16年、環境省)

⁽⁵⁾「対象事業実施区域を含むメッシュ」：対象事業実施区域及びその周囲に位置するメッシュデータとし、地域特性の調査対象範囲は方法書と同様とした。

アナグマ



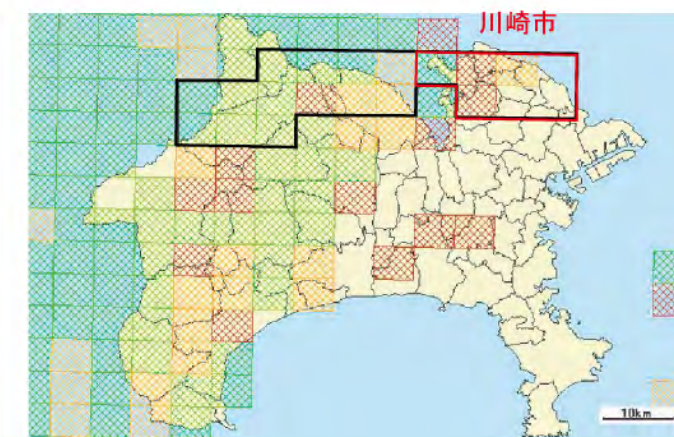
イノシシ



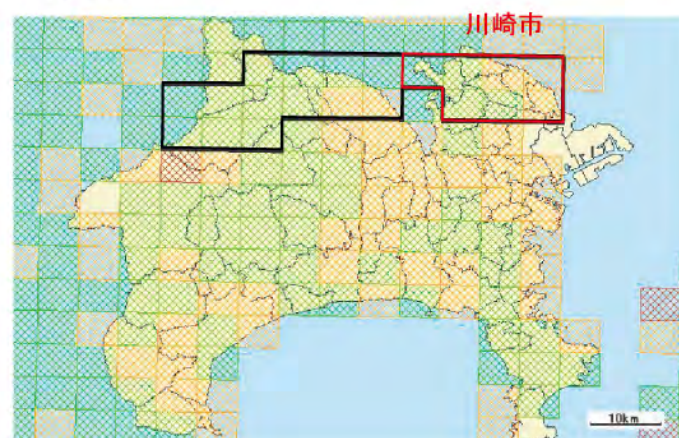
カモシカ



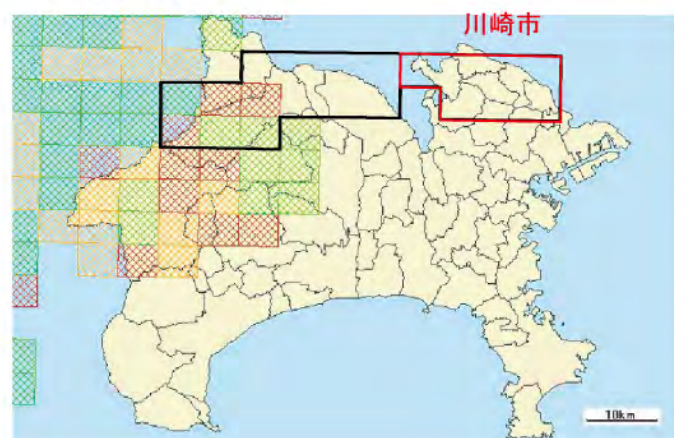
キツネ



タヌキ



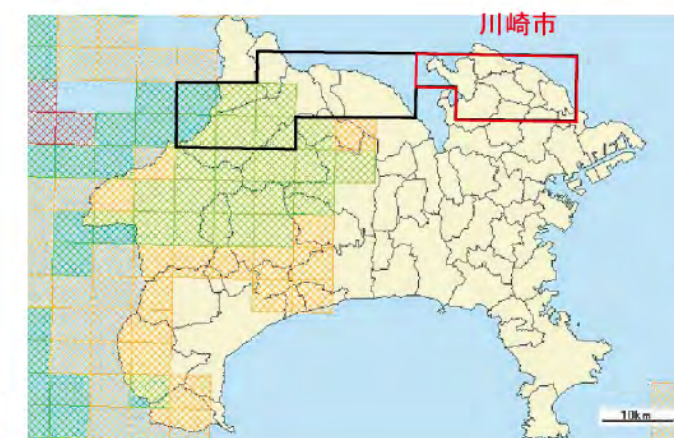
ツキノワグマ



ニホンザル



ニホンジカ



凡例

-  第2回調査のみ確認
-  第6回調査のみ確認
-  第2回と第6回の両方で確認
-  対象事業実施区域を含むメッシュ

資料：「第6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査（種の多様性調査）」
（平成16年、環境省）

図3-1-1-10 主な哺乳類の分布図

(鳥類)

「日本産鳥類の繁殖分布（第2回自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査） 動物分布調査（鳥類）報告書）」（昭和56年3月、環境庁）に掲載された種の内、対象事業実施区域を含むメッシュで繁殖情報が確認された種を、表3-1-1-14に示す。

これによると、文化財保護法に基づく天然記念物等及び種の保存法に基づく希少野生動物種の確認はない、「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）（以下、「環境省レッド」という。）では、絶滅危惧IB類にブッポウソウの1種、絶滅危惧II類にミゾゴイ、タマシギ等の4種、準絶滅危惧にヨシゴイ、ハイタカ等の4種が選定されている。また県レッドでは、絶滅危惧I類が6種、絶滅危惧II類が14種、準絶滅危惧が4種、減少種に11種、希少種に1種、注目種に2種、情報不足に1種がそれぞれ選定されている。

表 3-1-1-14(1) 対象事業実施区域を含むメッシュで繁殖情報が確認された鳥類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						繁殖期	非繁殖期
キジ目	キジ科	ヤマドリ				絶滅危惧II類	絶滅危惧II類
		キジ					
カモ目	カモ科	カルガモ					
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ					
ハト目	ハト科	キジバト					
		アオバト				注目種	注目種
ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ			NT	絶滅危惧II類	
		ミゾゴイ			VU	絶滅危惧I類	
		ササゴイ				絶滅危惧II類	
ツル目	クイナ科	ヒクイナ			NT	絶滅危惧I類	
		バン					
カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス					
		ツツドリ					
		カッコウ				絶滅危惧II類	
ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ			NT	絶滅危惧II類	
アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ				減少種	
チドリ目	チドリ科	イカルチドリ				準絶滅危惧	注目種
		コチドリ				注目種	
	シギ科	イソシギ				希少種	注目種
	タマシギ科	タマシギ			VU	絶滅危惧I類	希少種
タカ目	タカ科	トビ					
		ツミ				絶滅危惧II類	希少種
		ハイタカ			NT	情報不足	希少種
		サシバ			VU	絶滅危惧I類	
		ノスリ				絶滅危惧II類	希少種
フクロウ目	フクロウ科	アオバズク				絶滅危惧II類	
ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン				絶滅危惧II類	
		カワセミ					
	ブッポウソウ科	ブッポウソウ			EN	絶滅危惧I類	
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ					
		アカゲラ					
		アオゲラ					
スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ			VU	絶滅危惧II類	
	カササギヒタキ科	サンコウチョウ				絶滅危惧II類	
	モズ科	モズ				減少種	

表 3-1-1-14(2) 対象事業実施区域を含むメッシュで繁殖情報が確認された鳥類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						繁殖期	非繁殖期
スズメ目	カラス科	カケス					
		オナガ					
		ハシボソガラス					
		ハシブトガラス					
	シジュウカラ科	ヤマガラ					
		ヒガラ					
		シジュウカラ					
	ヒバリ科	ヒバリ				減少種	
	ツバメ科	ツバメ				減少種	
		イワツバメ					
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ					
	ウグイス科	ヤブサメ				準絶滅危惧	
		ウグイス					
	エナガ科	エナガ					
	ムシクイ科	メボソムシクイ				絶滅危惧Ⅱ類	
		センダイムシクイ				準絶滅危惧	
	メジロ科	メジロ					
	ヨシキリ科	オオヨシキリ				絶滅危惧Ⅱ類	
	セッカ科	セッカ				減少種	減少種
	ムクドリ科	ムクドリ					
	カワガラス科	カワガラス				減少種	減少種
		トラツグミ				減少種	
	ヒタキ科	クロツグミ				絶滅危惧Ⅱ類	
		コサメビタキ				絶滅危惧Ⅰ類	
		キビタキ				減少種	
		オオルリ				準絶滅危惧	
	スズメ科	スズメ					
	セキレイ科	キセキレイ				減少種	
		ハクセキレイ					
		セグロセキレイ				減少種	
	アトリ科	カワラヒワ				減少種	
		イカル					
	ホオジロ科	ホオジロ					
キジ目	キジ科	コジュケイ（外）					
ハト目	ハト科	ドバト（外）					
スズメ目	カエデチョウ科	ベニスズメ（外）					
14 目	36 科	68 種	0 種	0 種	9 種	39 種	10 種

注1. 選定基準は以下のとおりとする。

- ①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）
「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
- ④「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

注2. コジュケイ、ドバト、ベニスズメは外来種であり、種数等に計上していない。

注3. 表中の空欄は、該当するものがないことを示す。

資料：「日本産鳥類の繁殖分布（第2回自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査） 動物分布調査（鳥類）報告書）」
（昭和56年、環境庁）

(両生類・爬虫類)

「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物分布図」(昭和56年、環境庁)によると、対象事業実施区域及びその周囲では、重要な両生類及び爬虫類は報告されていない。

(昆虫類)

「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物分布図」(昭和56年、環境庁)において、対象事業実施区域及びその周囲で確認された種を、図3-1-1-12及び表3-1-1-15に示す。

これによると、文化財保護法に基づく天然記念物等及び種の保存法に基づく希少野生動植物種はない。また、環境省レッドでは準絶滅危惧はオオムラサキの1種が確認されているほか、県レッドでは、絶滅危惧IB類が1種、絶滅危惧II類が1種、準絶滅危惧が1種、要注意種が2種確認されている。

表 3-1-1-15 対象事業実施区域及びその周囲で生息が確認された昆虫類

目名	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	⑤
トンボ目	アオイトトンボ科	オツネントンボ			D・G		絶滅危惧II類
	サナエトンボ科	ウチワヤンマ			D・G		
	オニヤンマ科	オニヤンマ			D・G		
	トンボ科	コシアキトンボ			D・G		
		チョウトンボ			D・G		絶滅危惧IB類
チョウ目	セセリチョウ科	アオバセセリ			G		要注意種
	アゲハチョウ科	モンキアゲハ			C		
		ミヤマカラスアゲハ			G		
		オナガアゲハ			G		
	シジミチョウ科	オオミドリシジミ			G		
	マダラチョウ科	アサギマダラ			G		
	タテハチョウ科	スミナガシ			G		要注意種
		オオムラサキ			指	NT	準絶滅危惧
	ヤママユガ科	ウスタビガ			G		
2目	9科	14種	0種	0種	14種	1種	5種

注1. 選定基準は以下のとおりとする。

- ①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年、法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物分布図」(昭和56年、環境庁)に掲載されている種
指：指標昆虫類、(以下、特定昆虫類の選定基準) B：分布域が国内若干の地域に限定されている種
C：普通種であっても、北限・南限など分布限界になると思われる産地に分布する種、
D：当該地域において絶滅の危機に瀕している種、G：環境指標として適当であると考えられる種
- ④「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」(平成24年、環境省)
「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成25年、環境省)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
- ⑤「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧I類、絶滅危惧II類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧II類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

注2. 表中の空欄は、該当するものがないことを示す。

資料：「日本の重要な昆虫類 南関東版」(昭和55年、環境庁)

「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物分布図」(昭和56年、環境庁)

(魚類)

「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物分布図」(昭和56年、環境庁)によると、対象事業実施区域及びその周囲では、重要な魚類は報告されていない。

4) 生態系の状況

対象事業実施区域及びその周囲の生態系の模式図を、図3-1-1-11に示す。

川崎市の市街地を中心とする地域は、平坦な地形に市街地が広範囲に分布し、自然環境は比較的少なく、都市の生態系が成立している。この地域で成立する主な植生は「市街地」であり、その中に小規模な「クヌギ-コナラ群落」や「畑地雑草群落」が散在する。従って、この地域に生育する植物種の種数は少なく、人為的環境に適応した種、植栽種、外来種が占める割合が多くなっている。これらを基盤環境として生息する特徴的な動物種としては、ネズミ類、モグラ類等の小型哺乳類、スズメ、ムクドリ等の鳥類、アブラゼミ、モンシロチョウ等の昆虫類が考えられる。また、これらを餌とする生態系の上位性の種として、タヌキ等の中型哺乳類、ハシブトガラス等の鳥類、ツミ等の小型猛禽類の生息が考えられる。

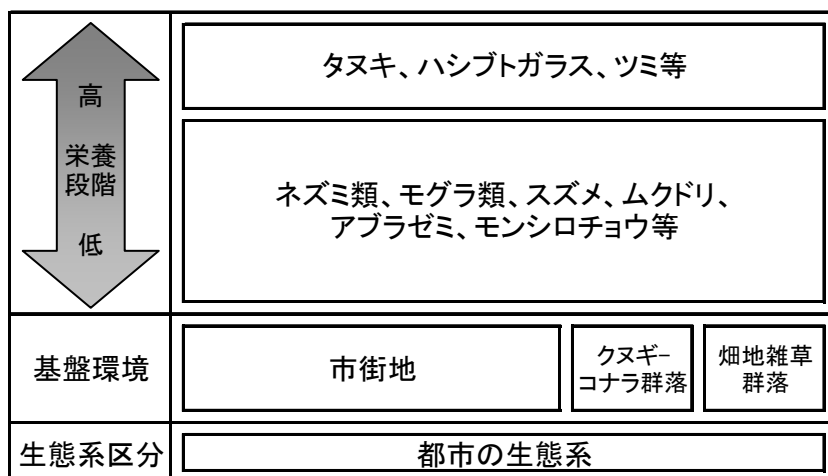


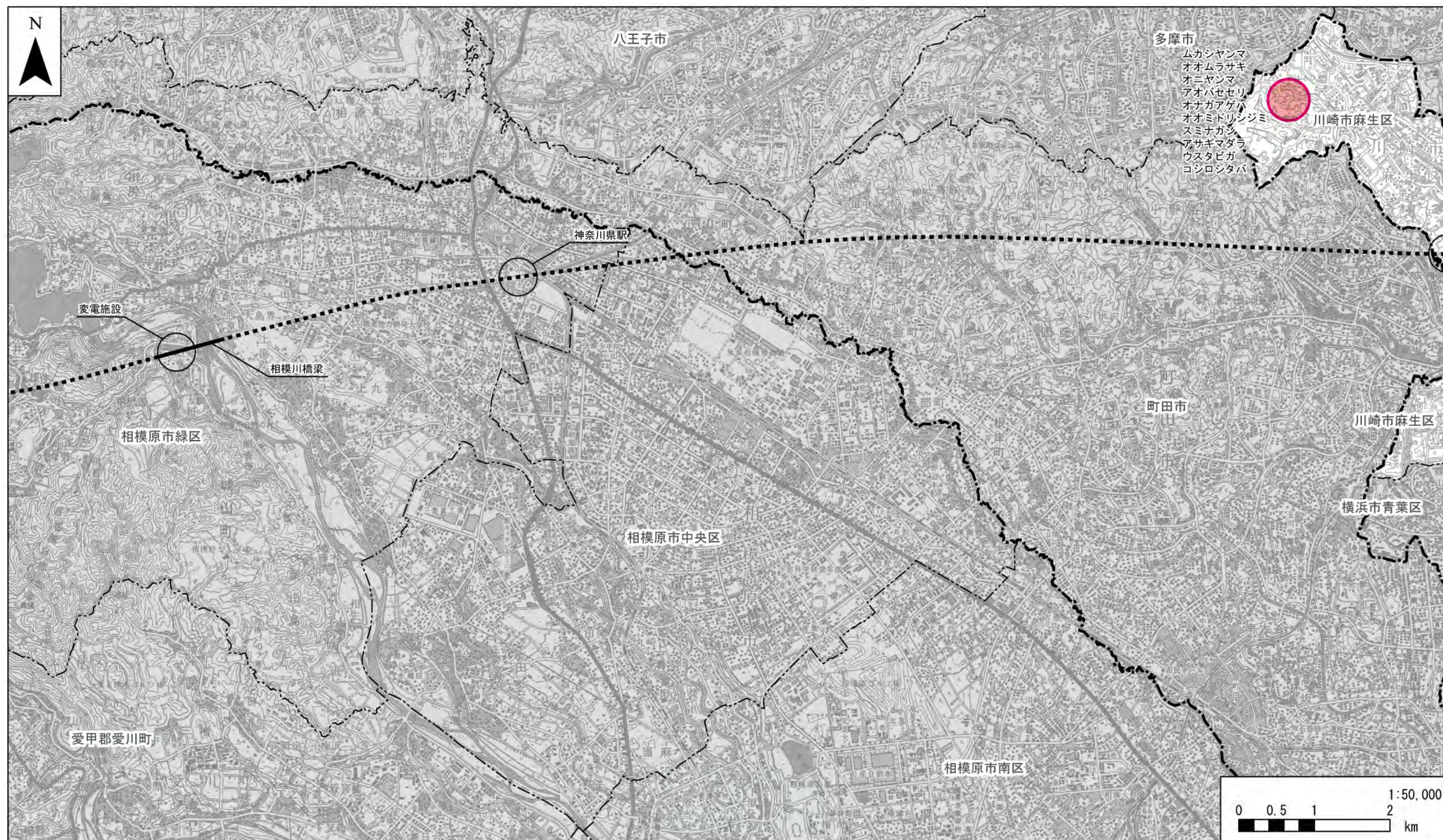
図 3-1-1-11 対象事業実施区域及びその周囲の生態系の模式図



- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 計画路線(地上部)
 - 工事用道路
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 昆虫類

資料：「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物分布図」（昭和56年、環境庁）

図3-1-1-12(1) 第2回自然環境保全基礎調査による動物の分布図



- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 計画路線(地上部)
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 昆虫類

資料：「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物分布図」（昭和56年、環境庁）

図3-1-1-12(2) 第2回自然環境保全基礎調査による動物の分布図

